

---

# めくるめく、規模の思考。

紀璃人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

めくるめく、規模の思考。

### 【Nコード】

N6656T

### 【作者名】

紀璃人

### 【あらすじ】

早苗さんが外の世界に思いはせるお話。  
百合抜きです。椀と阿求も出演。

(前書き)

ノスタルジックな早苗さんの頭の中を覗いてみましょう。

早苗は空を飛んでいた。

まあ、それ自体は大した事ではない。人だつてコツさえ掴めば飛べる訳だし。ただちょっと里に買い物に向かっているところである。しかし、気がついたらじつと空を見上げていた。外の世界ではこの空の上には宇宙が広がっていた。幻想郷はどうなんだろうか。宇宙が同じように広がっているのなら、地球と場所は違うのか。そんなことを考えていた。世の中は案外広いものだし、結構遠くにあるかもしれない。

ふと、下が少しざわついていることに気がついた。居たのは妖精で探し物がなんだかんだと喚いていた。まあ、妖精だからいいかと思ひ目的を思い出す。だいぶ飛ぶのも上手になったなあと思ひながら里へと向かった。

私は里での買い物を終えて帰路に就こうとしていた。その時前方に見覚えのある顔が出てきた。阿求だ。別に彼女はなんてことはない……。でもあの紅葉のペンダント、見覚えが……。

そんなことを考えていたら彼女の前で立ち止まっていた。

「あの、早苗さん？」

「ん？ああ、そのペンダントどうしたのかな、って」

「これはうちの庭に落ちてたんですよ。誰のか分からないけど、砂を落としたら綺麗だったしいいかなって」

「そう、似合ってるよ。ただ、少し見覚えがあったような気がしただけ。」

そのあと少し話をしてから阿求とは別れた。

帰りは散歩を兼ねて少し道を変えて、山を通ってみた。飛んでるけど。声を掛けられたのはその時である。

「おーい、早苗ー」

「？」

声は山の方から聞こえた様に思ったんだけど、姿が見えない。いや、よく見ると誰かが樹の上で手を振っていた。彼女は天狗の衣装に身を包んだ白狼天狗だった。

「どうしたのよ、椀」

「あ、うん。その探し物をしてるんだけど」

「探し物？」

どうやら彼女は文に貰った紅葉の形のペンダントを失くしてしまい、探している様だった。森は紅葉していて、見つけるのが難しいという。私も着けているところを何度か見たけどよく似合っていた。そしてそれはさつき阿求が着けていたものだった。

「ああ、あのペンダントはさつき阿求が庭で拾ったとかで身につけていたわよ」

「ほんと！？その人はどこに？」

「さつきは里の寺子屋のそばの花屋の前で女の子と話してたけど？」

「ありがとう、いつてくるよ！」

猛スピードで飛んで行ってしまった。そんなに速く飛んだら着いた時に阿求は驚いてしまいうんじゃないかとも思ったけど、もう姿も見えないしいいかな。

世の中は案外狭いものだ。だから外の世界も案外近くにあるのかも知れない。博霊神社から行けるぐらいだし。外と同じ星座もみえるし。

F  
i  
n

(後書き)

早苗さんがちょっとした日常から外に思いはせたりしました。  
たまには日常的なものもいいかと。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6656t/>

---

めくるめく、規模の思考。

2011年10月9日04時55分発行